

家紋合わせの神経衰弱カードゲーム

Card game of memory matching family crests

グループ名：八王子もんもんず
 学生氏名¹⁾：飯島未来¹⁾、片野心聖¹⁾、伏木咲七¹⁾
 指導教員 永見豊¹⁾

1) 所属先：拓殖大学 工学部 デザイン学科 エンパシーデザイン・演習

現代の日本では家紋の認識が薄れつつある。若い世代に関心を持ってもらうため、「家紋神経衰弱」ゲームを制作した。このゲームでは有名な家紋を使い、遊びながら家紋の歴史や由来に触れられる工夫をしている。今後は教育現場での利用を目指し、家紋に親しむ機会を広げたいと考えている。

キーワード：家紋、カードゲーム、知育、小学生

1. はじめに

家紋は日本の伝統文化の象徴であり、そのデザインや歴史は古くから家系や地域の特色を反映するものとして用いられてきた（図1）。家紋大事典[1]によれば、かつては家紋が家庭や地域社会で重要視されていたが、現代では家紋への理解が薄れ、家族のルーツとしての認識も希薄になりつつあるとされている。特に八王子のような地域では神社や家庭に家紋が残されていることが多く、地域の歴史や家族の伝統が垣間見える。しかし、若い世代においてその認識が低下していると指摘されている。そこで、私たちは家紋の存在とその魅力を再認識し、若い世代にも親しみを持ってほしいと考え、「家紋神経衰弱」ゲームの制作を行う。

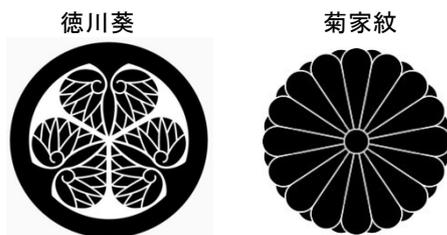


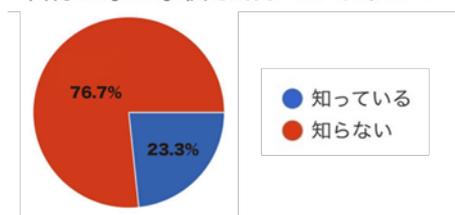
図1 家紋の例

2. 家紋に対する意識調査

私たちが家紋に興味を持ったきっかけは大学でのロゴマークをデザインする演習授業である。規則性があることが良いデザインとされており、家紋は緻密に計算されたデザインであることに気づいた。

八王子の大学に通う学生 32 名に家紋に対する関心についてアンケートを実施した。その結果、自分の家の家紋に興味を持つ人は 78% と多いが、実際にその家紋を知っている人は 22% と少ないことが分かった（図2）。

自分の家の家紋を知っていますか？



どの家にも家紋があります。

自分の家の家紋が何か、興味はありますか？

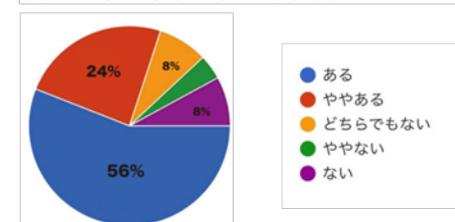


図2 家紋に関するアンケート結果 (N=32)

3. 家紋の魅力

家紋はただのデザインではなく、家族や地域の誇りを象徴しているといわれている。戦国武将が家紋を旗印に使ったように、家紋にはその家族の歴史や信念が込められており、八王子の神社やお寺にも、今なお家紋が使われ続けている。



例えば、徳川家の家紋は三つ葉葵である。三つ葉葵は、京都の賀茂御祖神社や賀茂別雷神社の神事である「葵祭」に端を発し、賀茂明神を信仰する人々が神聖視して家紋に用いた。徳川家康が征夷大將軍になったことで、三つ葉葵紋は天下を治める將軍家の家紋として、権威の象徴となり厳格な紋として厳重に使用が制限されるようになった。そのため、水戸黄門の印籠にこの三つ葉葵があることで將軍家に関係していることが一目でわかる。

4. 家紋神経衰弱

家紋をもっと身近に感じてもらうために、私たちは「家紋神経衰弱」カードゲームを考案した(図3)。名高い武将の家紋を取り入れ、遊びながら家紋に触れられる工夫を施している。

家紋は円に収まる図柄が多いため、カードは円形とした。表面には家紋とその呼び名だけのシンプルな内容とした。裏面は家紋をアレンジしてデザインした。遊び方は神経衰弱と同様に、2枚めくって、表が同じ絵柄となればカードが自分のものになる。家紋は26種類で各2枚のカードとした。

ゲームをしながら、家紋に興味を持ち始めたら、家紋紹介カードでその由来やエピソードを確認できるようにした。試験的に大学生にこのカードゲームを使ってもらったところ、「楽しかった、家紋に親しみが湧いた」などの感想が得られたため、私たちのコンセプトは間違っていないと考えている。

5. おわりに

今後、学童保育などで実際に「家紋神経衰弱」を遊んでもらい改良を重ね、発表会ではカードゲームの効果を報告予定である。今後の展開として、来年度の「大学コンソーシアム八王子学生生活動支援事業」の補助として印刷費を申請し、本カードゲームを複数製作し、八王子市の学校、児童施設などに配布することを考えている。

「家紋神経衰弱」を通じて、家紋に親しみながら楽しく家紋について学ぶことができる機会を多くの人に提供したいと考えている。

参考文献

[1] 高澤等「家紋大事典」,東京堂出版,2021年12月